

ご挨拶



大会名誉顧問

石原 信雄

東日本大震災。あれから10年を迎えます。地震と津波による被害は想像を絶するものがあり、特に被災地東北4県は豊かな文化や歴史資源、地域の経済を支える観光・商工・農業・水産業など、産業の多くを失いました。あれから10年。地域の皆様のマイナスからの立ち上がりは、勇気と希望をもって全国の人々に大きな感動を与えてくれました。今、産業基盤である道路や港湾の整備などは整いつつあります。しかし、真実に東北4県に住まわれる方々の生活が戻っているかと問われれば、否と言えると思います。国をあげて、東北の復興なしには日本の復興はない、と言わしめているのはその通りでしょう。自助と互助と公助の3つの相互信頼をもって、総ての人が心豊かに暮らせる日を切に祈念いたしまして、東北復興の支援活動を微力ながらお手伝いできましたら幸いに存じます。



大会会長

谷口博昭

歩くことは心身の健康づくりの原点です。東日本大震災から10年を機に、被災地を歩き被災地の暮らしや復興の状況を直視し震災の教訓を学び実感して戴くと共に、被災地との交流を通じて心身と地域の復興、そして新しいコミュニティの形成に貢献することを目指します。皆様方のご参加とご支援を宜しくお願い致します。



大会副会長

末宗 徹郎

今年で東日本大震災の発災から10年を迎えます。これまでの取組により復興は着実に進んでいますが、原発事故による災害からの復興・再生はまだ道半ばです。災害が多発する中であって、復興の姿を示し、大震災の教訓と記憶を風化させることなく後世へ継承していくことは重要であり、私たち実行委員会としても、東北復興を応援する取組を実践してまいります。

後援にあたって



青森県知事

三村 申吾

東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災から間もなく10年を迎えます。この10年という節目に、「ウォーキング」を通して、東北を元気づける様々な取組が行われることは、東北地方の「創造的復興」の推進に向けて、地域住民の大きな励みとなるものであり、この活動が地域に深く根差していくことを期待しています。



岩手県知事

達増 拓也

東日本大震災津波から10年目を迎える本年、東北を応援する事業を開催いただき、心より御礼申し上げます。また、開催に御尽力いただいた関係者の皆様に深く敬意を表します。東北をつなぐリレーウォークや被災地でのコミュニティづくり事業などを通じ、復興に力強く取り組む地域の姿や三陸地域が持つ多様な魅力が広く発信されることを期待しています。本事業の成功を心から祈念しております。



宮城県知事

村井 嘉浩

東日本大震災から10年となり、復興が着実に進む一方で、震災の記憶が薄れつつあります。そのような中、ウォーキングを通して、復興に向けた“いま”の東北や、アプリを活用した観光情報の発信などに取り組んでいただけることは、被災地にとって大変心強いものと感じております。御支援への感謝とともに、本事業の成功を心よりお祈り申し上げます。



福島県知事

内堀 雅雄

震災以降、全国の皆様からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めております。一方で、長期に及ぶ廃炉や避難指示の継続、根強く残る風評など原子力災害に伴う困難な課題が立ちはだかり、復興はまだ道半ばです。大会を通じて、被災地を歩き、肌で感じた福島を今を広く発信していただくことは、復興の大きな力になるものであり、本事業の成功を心よりお祈り申し上げます。